

## 会員企業紹介

### 訪問 インタビュー

# 青年部会長/全国大会報告決定



## (有)山崎製作所

代表取締役 山崎 将臣 氏 (高崎支部所属)

今回は、青年部会・部会長で九月の青年経営者全国交流会での報告が決まった(有)山崎製作所・山崎社長のもと伺いました。

### ▼会社概要

一九五七年、金属プレス業として祖父が創業したと聞いています。というのも祖父は一九七〇年に業務中の交通事故で亡くなってしまい、弱冠二十歳だった父と叔父が引き継ぎました。私が入社したのは二〇〇五年で二〇一五年から社長となりました。現在は金属製品のレーザー加工、精密板金加工を主な仕事としています。

### ▼自己紹介

高校までは勉強もスポーツ(バスケットボール)も真面目

にやっていたつもりですが、大学に入ると目的を見失い、楽しい学生生活を送りました。卒業後は東京の大手企業に就職し、同期の中で一番になるという新たな目標を立て前向きに働いていました。

二〇〇五年、父親を助けるつもりで帰ったものの、息子が戻って満足したのか、雑に扱われる日々でした。当然喧嘩もしましたが、決裁権もないうえに、親子ということでもどうにもならず、その労力を違うことに使うと気づくまで四〜五年掛かった気がします。

### ▼同友会入会のきっかけ

二〇一七年の経営研究会で講師を務めた静岡同友会、(株)山崎製作所の山崎かおり社長は、屋号と業種が同じで、以前から



親交がありました。個人的な付き合いで参加しましたが、その時点では入会の意志はありませんでした。

その後、三年ぶりの新卒採用の社員が入社する頃に、同友会の新入社員研修会の案内が目にとまり、前回の新卒採用では教育してあげられなかったという後悔と、同期の仲間を作ってあげたいという思いから「自社にとって今選ぶべきものは何か」を考え入会を決意しました。

### ▼同友会活動・青年部会

同友会に限らずインプットばかりでは主体的な学びとは言えません。社員研修会でも、他の方の講義内容を、いつか自分が話すかもしれない。同じ事を社内で伝えなければいけないので「伝える(アウトプット)」勉強の場とも捉えています。

今年度からは、青年部会長を拝命しました。経営者は、情報・技術・熱量など、全てを自分が持っているもので、全部やろうとしがちです。しかしそれでは組織として落とし込めないもので、部会の中に役割を定め権限も移譲しました。個々の役割で部会を盛り上げたいと考えています。

自社の歩みと合致した部分も大きいので、報告を聞き、一名でも新しいことに挑戦しようと思ったから受けた甲斐があります。



▼会社・同友会それぞれの展望  
当社は製造業ですが、業種に縛られない仕事ができるようになってきました。「仕事を生み出す」ことを主に、地域で競合せずに世界中のニーズに対して選ばれる企業、困ったときに名前の挙がる企業でありたいです。

同友会は、将来の展望を話せる場所としてつい足が向いてしまうのかもしれない。

取材の様子は群馬同友会のHPにも掲載予定。顔の見える広報誌を目指して今日もどこかで取材中!

所在地 / 高崎市吉井町小暮105-1  
連絡先 / TEL 027-388-3131  
URL / <https://e-bankin.com/>

同友ぐんま7月号 会員企業紹介「訪問インタビュー」

広報委員の取材の様子や紙面に載せられなかったQ&Aをご紹介します！（抜粋）



【Q：広報委員／A：山崎社長】

Q：色々な趣味をお持ちですが少し掘り下げて聞いても良いですか？

A：料理に関しては、定食をメインで作る事が多いですね。お客様用と言いますか、おもてなしのタイミングと言いますか、妻の誕生日にチーズケーキを焼いたりもしました。バスケットボールで言うと、昨日もやってきました。年甲斐もなく20歳も下の子達と本気になってやってきてしまうので翌日はもう体がボロボロです（笑）。あとはユーチューブを見て、早く走る研究を今さら始めています。作る事で言うと、結婚指輪も自分たちで作りました。

Q：職人とアーティストの側面を両方感じます。製造業としてどう捉えますか？

A：作る（創る）ことは根本的に好きなんだと思います。経営者でなかったら突き詰めてしまっていたかもしれないですね。

当社がアートを取り入れ始めた頃は、アートで地方創生というのが叫ばれていた頃でした。さらにうまくマッチング出来ていないことも少し調べて知っていました。アートを魔法のように捉えている行政の人たちと、作品に自信はあ



るが何に使えるかまで考えられていないアーティスト。そこを繋ぐために出来ることはあると感じていたのと、両者が当社に対して「どうにかなるかもしれない」という期待を込めて協力してくれた事が大きいです。



Q：事業は今後、拡大していく予定ですか？

A：地域（会社のある高崎市吉井町）の事を考えると、もう少し多角的に経営したいと思います。この辺りは飲食店も少ないですし、教育機関も少ないので、カルチャースクールじゃないですけど人が集まるような所にしていきたいと思っています。近所の人たちがお茶飲みに来て、アレやコレや作ってほしいとかあれば作り、何かを作りたい人が一週間くらい住み込みで居られる施設とかでもいいと思います。土日が休みなら、休んでいる期間は開放して、使い方の説明が出来るスタッフが一人付けられれば、加工機を月額制で貸出すとか。端材と加工機のシェアリングは何かできそうですよね。

Q：学校や企業、行政などと絡む場合、話はどちらから？

A：ここ最近では相手から来る事ばかりですが、基本的には紹介です。近所の大学の高崎商科大学から話が来たりするとその先生から拡がったりします。何が最初と言われると思いませんが（笑）。行政とかは特に口コミで拡がる傾向が強い印象です。

